

## AIは愛

中津市長 奥塚 正典

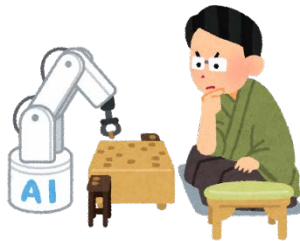
最近流行の<sup>エーアイ</sup>AIとは、人工知能のことです。人間が作るものですから、人間より賢いわけはないはずですが。ところが、コンピュータは、人間一人では処理できない超膨大のデータをいとも簡単に迅速に分析し答えを出します。その上、AIは、自ら学習し考える力を持つ、いわば人間から離れ「一人歩き」できるようになるというのです。

例えば、囲碁や将棋。限られた時間の中で過去の高段者の棋譜から一番良い方法を見つけ、その上に思考をめぐらして新しい手を打ちます。AIとプロの棋士との対局はAIの勝利が多いのです。

今後、AIはますます活用され、日常生活の質の向上や経済活動の活発化に飛躍的に力を発揮することが期待されています。例えば、自動運転の車です。高齢になり車の運転が危なくなれば、人に替わって運転し買い物など用事を済ませる研究が進みます。また、家事や介護のロボットも実用化が話題になります。

では、AIは一体どこまで進化するのでしょうか。人の行動・思考のプロセスや感情の起伏といった心の動きは、例えようがないくらいに複雑です。AIが、自ら人と同じようにその場の状況に応じて判断し行動することができるか、技術上の問題とともに、倫理上、正しいかどうかの課題が常にあります。お茶の水博士が作った鉄腕アトムは心優しく強い正義の味方でなければなりません。

人類が生みだしてきた文化は、やさしさ、あこがれ、喜び、楽しさ、悲しみ、怒り、嫉妬など人間の複雑な感情系の中で、人間を人間たらしめてきた最も価値ある「愛」に支えられてきたと思います。



AIとの対局

AIの未来には楽観論も慎重論もあります。AIを真に有意あらしめるためには、究極、これを作り活用する人間に何より「正しい人間愛」が求められるのです。そうそう、AIは、「愛」とも読めますから。